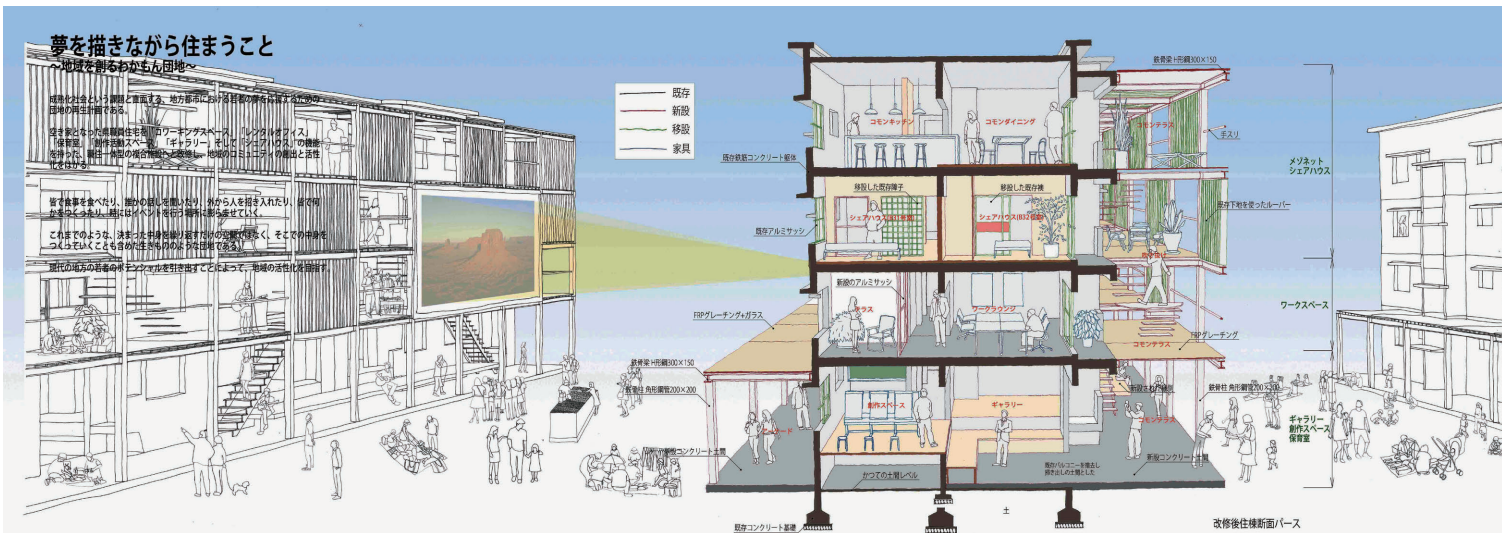


優勝

夢を描きながら住まうこと ～地域を創るわかもん団地～

富山 | 富山県立富山工業高等学校 選手…3年生4名[女子4名]



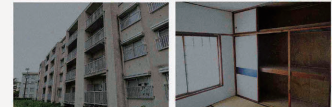
この場所で起きていること

本計画地である1号棟は、コンパクトシティが進む山手中心市街地と、さくら日本海側の主要道路であった岩瀬地区のあいだに位置する。富山市中心市街地と岩瀬地区を結ぶ富山ライトレール(山手線)の沿線が近く、徒歩10分圏内には運動場があり、市民の交通手段として活用されている。自動車を持たない人にとっても交通の利便性は非常に高く、周囲には豊かな緑や運河、公園のある豊かな環境がありながら、全15住棟もあるすべての建物が、居住者の課題によるコストダウン化などが深刻な問題となっている。

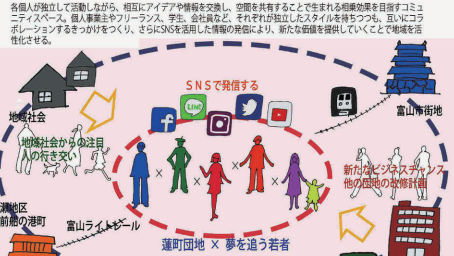


公共施設の最適化のもとに

運町団地1号棟は、昭和42年に竣工した鉄筋コンクリート建て、建式構造の職員住宅である。敷地には職員住宅7棟を含む全15の住棟が建っており、1号棟だけの敷地面積は約1,750㎡となっている。住居の高齢化や人口減少、設備の老朽化、また行政の厳しい収収状況により、公共施設の最適化という命題のもと、この運町団地も平成28年3月に完全に入居者募集停止となり、現在1号棟、2号棟は入居者のいない完全な空き家の状態である。

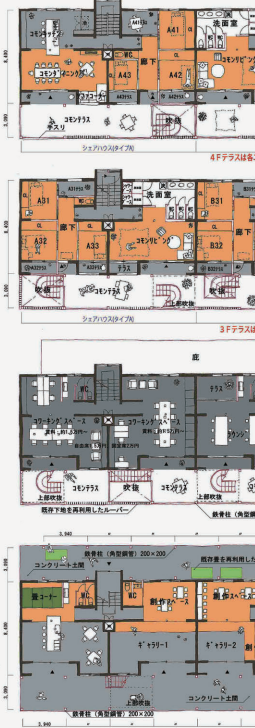


若者がチャレンジできる場を創る

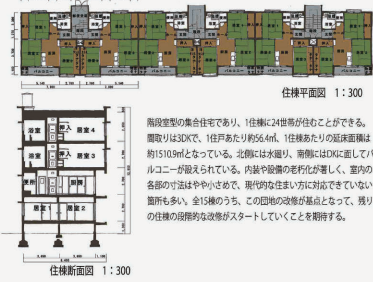


若者のポテンシャルを引き出す居住の一体

- シェアハウス** 夢を追う若者が低価格で居住する。共同生活の場によって、交流が生まれ団地・地域の活性化につながる。
- 創作スペース** 作家やアーティストの活動を支援したり、幼形のための工作室などを開所したりする。ときには、コワーキングスペースとのコラボも行う。
- コワーキングスペース** 起業や独立、新たな働き方をを目指す若者たちが利用する。アイデアや情報を交換することで生まれる相乗効果を目指す。
- レンタルオフィス** コワーキングスペースを活用していた入居者がプロジェクトを立ち上げた際、外部から企業を受け入れた、最適な良い運営を実現する。
- ギャラリー** 創作スペースと連携した作品の展示だけでなく、さまざまなイベントやレクチャーが行われる。自分自身の成長を支援する場としても活用する。
- 保育園** 働きながら子育てをしている女性を応援する。コミュニティを介して互いの様子がうかがえる環境をつくる。

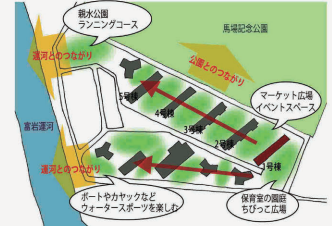


はじまりの団地 ～運町団地北1号棟～



段階的な改修と住棟間のデザイン

1号棟からはじまり実際に応じて行政とともに改修を進めていく。住棟間のスペースを有効に活用し、にぎわいを創出しながら周囲の環境をも巻き込んでいく。



立体的な中間領域を生み出す

既存の住棟の解体



耐震補強を兼ねた屋外空間の拡張



立体的につながるコモントラス



蓄積されたモノによる再編集



1. 既存の鉄筋コンクリート壁式構造の躯体。木材による内装をはがし、スクルトンの取換とする。壁やスラブがブロックで覆われている。
2. 外壁に溶かした鉄骨フレームによる足場を造り付ける。中間領域をもう1段階拡張しつづける。耐震効果もたせける。
3. 既がりコニーと直結つながるコモントラスには、収束や階段を設けていく。垂直・水平方向につながる立体的トラスとなる。
4. 内陸の下地材をルーバーや手摺りとして再編集し、南向きの日照調整や拡張されたコモントラスのインテリアをつくりだしていく。



はじめはあまり評価をしていなかった。平行配置の既存団地の1住棟の改修で、南戸外に巾広いテラスと階段を設けた案としか読めず、住戸で落ち着いて暮らすにはプライバシーの確保が難しいと映った。けれども対戦が進み、何回も、何回も案を見るうちに、徐々にこの案が只者ではないことに気づいた。

これだけの密度ある図面表現は、裏付けがないと描けないものだ。何で描けるのかを探るうちに、「わかもん団地」の周到的な構成が見えてきた。私たちの世代には馴染みが薄く、事件を起こすよくないイメージしか持てないが、ここには若い世代に浸透しているSNS、Facebook、LINE、Instagram、Twitter、YouTubeなど現代のさまざまな情報発信や交流手段によって結ばれる絆や高まるポテンシャル、新

たに生まれる暮らし方が描かれている。何かが起こそうだ！と思わせられる仕組みが用意されている。

1Fギャラリー創作スペース、2階ワークスペース、その上階2層のシェアハウスの断面構成とともに、そこでの暮らしが細かく計画されている。中間領域を生み出すために設けられた、増築した南北のバルコニーが耐震補強を兼ねるなど、計画に抜けがない。

審査員全員の賛同を得た優勝である。終わってみれば、前年度の優勝に続いての2連覇で、しかも女性メンバーによる快挙であった。あえて一言加えれば、次なる住棟に繋がる道筋と住棟間のデザインが示されていけばと思われる。

それにしてもよくやった、おめでとう！

受賞のことがば

このたびは「建築甲子園優勝」という大変名誉ある賞を受賞することができ、とてもうれしく思います。この賞をいただくにあたり、お忙しいなか私たちのために指導してくださった監督の藤井先生や、審査をいただいた審査員の皆様には心より感謝いたします。

昨年の作品を超える提案するため、何度もディスカッションを繰り返しました。プレッシャーから計画地やアイデアがなかなか決まらず大変な思いもしました。しかし、甲子園2連覇を目標に、メンバー4人と監督の藤井先生とともに最後までやりきることができました。

今回の作品の提案は、富山市の蓮町団地（県職員住宅）を、6つの機能を持つ職住一体型のシェアハウスへとリノベーションするというものです。既存の住棟の外側に吹抜けや階段のある新しい鉄骨フレームを付属させ、外部空間の拡張を図りました。私たちはこれをコモンテラスと名付け、既存のRC造ではできなかった縦や横のつながりを生み出そうとしています。

さらに、SNS（ソーシャルネットワークサービス）を活



用することで、夢を追う若者たちが個々の活動や蓮町団地を発信し、地域の人々も巻き込んだエネルギーあふれる団地へと再生されることをめざしました。

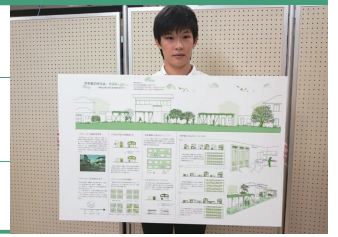
はじめは、この提案が共感を得られたかとても不安な部分もありましたが、優勝という評価をしていただいたことで、若者にも社会や未来を変えられるんだ、という自信とともに、私たちの世代への期待や激励をしていただけているような気持ちにもなりました。

これからは「建築甲子園優勝」という素晴らしい結果を自信に、建築を通して地域社会に貢献していきたいと思っています。本当にありがとうございました。（神原）

準優勝

空き家の価値よ、永遠に ～時代に寄り添う空き家のカタチ～

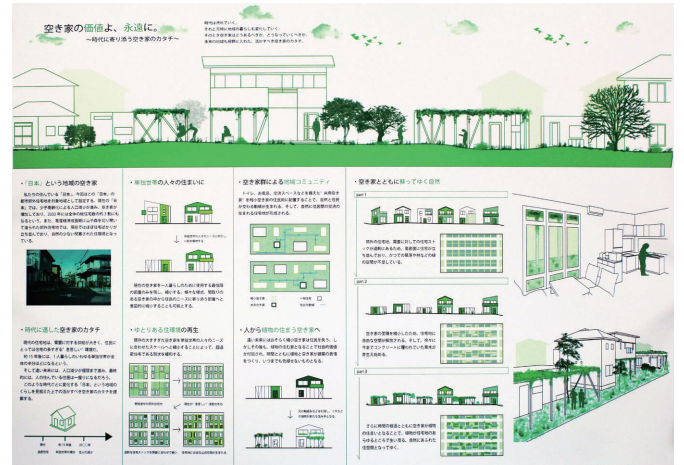
京都 | 舞鶴工業高等専門学校 選手…3年生1名[男子1名]



宅地として開発され過密状態にある住宅地で、空き家となった住宅や空き部屋の部分を緑化して、ゆとりある住環境を再生する提案である。空き家を何らかの施設として再利用する提案がほとんどを占める中で、この提案は、減築再生案である。パネル全体を緑色系で統一し、年を経るごとに緑に覆われていく様子がよく表現されており、説得力がある。単独世帯も多くなることから、トイレ、お風呂、交流スペースを共有できる空き家の再生も行われ、地域コミュニティの再構築も提案されている。

空き家と緑が共生する建物緑化といったレベルの話ではなく、時間の経過とともに空き家が植物の住まいになり、植物が建物を覆い、建物が朽ち果て緑地に戻るといった、開発と自然環境との共存をテーマにした壮大な夢でもある。

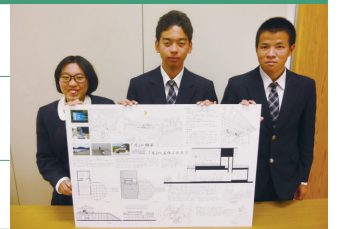
緑豊かな住宅街を再生するためには、提案を実現していくためのしっかりとしたマニュアルづくりと管理運営が必要であろう。放置されれば廃屋が並ぶゴーストタウンになってしまう。空き家が増えていく現状において、あえて再利用をしないう減築と緑化という選択があることをわかりやすく絵を描いて見せてくれたことが評価された。(廣瀬)



ベスト8・審査委員長特別賞

「月」を継承 「月」の文化ふたたび

静岡 | 静岡県立天竜高等学校 選手…3年生1名[男子1名]、2年生2名[男子1名、女子1名]



ふと忘れていたことを思い出させてくれた。

日の丸の国旗が示すように、日本では太陽の恵みの下に暮らしを営んできた。人工的な環境が進歩した現代では、24時間を連続的に暮らすことに慣れ、かつての暮らしの半分を忘れてしまったようだ。夜と月明かり。この提案はその光景が浮かび、目を醒された思いである。さらに計画を読み進めると、こんな素敵な場所があったのかと思わされた。ここには「月」という名前の80人あまりの小さな村があり、しかも楠木正成に仕えた源氏の一族の末裔で、正成公の心を「月」に警えての命名という。

湖畔の空き家に月夜ほど似合う状況はないかも知れない。月見舞台での田楽の舞を見てみたいし、工房の月見団子づくりも悪くない。たったの1軒、取り残された1軒での月夜が待ち遠しいという思いにかられる。従って計画の立案に文句はない。素晴らしい。が、苦言を呈せば図面表現が勿体ない。図面の上半分を使って、月見舞台から月明かりに照らされた夜半の情景を描き切るような思い切りが欲しい。発想が表現を求めているように思われる。とは言え、この提案は審査員を泣かせるにいく発想であり、ふと実現への道はないかと思わせる計画でもある。(片山)

